

# 治水

発行 全国治水期成同盟会連合会

東京都千代田区麹町4丁目8番26号 ロイクラトン麹町  
電話 03(3222)6663 FAX 03(3222)6664  
ホームページ <https://zensuiren.org/>  
お問い合わせ [info@zensuiren.org](mailto:info@zensuiren.org)  
編集・発行 椿本和幸



## ● 目 次

会長年頭のご挨拶	2
国土交通省 井上 智夫水管理・国土保全局長 新年のご挨拶	3
「河川愛護月間」“絵手紙”入賞作品決定!	6

## 会長年頭の挨拶



令和3年の年頭にあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

会員の皆様には、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げますとともに日頃の当連合会に対する多大なご支援、ご協力に衷心より御礼申し上げます。本年の皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

さて、皆様ご承知のとおり、昨年は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、生活や経済活動に重大な影響が生じました。このような中、全国各地において豪雨等により水害並びに土砂災害が発生し、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を考慮した災害への対応が求められる年となりました。中でも「令和2年7月豪雨」においては、九州地方を中心に記録的な暴風雨となり、堤防の溢水・決壊等により広範囲に渡り浸水し、80名を超える方々が亡くられるなど甚大な被害が発生しました。改めて、治水事業の重要性を痛感させられ「事前防災対策」予算の確保が必須であることを再認識いたしました。

気候変動に伴い、降水量は増大し、災害は今後ともさらに激甚化、頻発化していきます。このような状況下において、昨年末に政府は、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」を取りまとめ、令和3年度から7年度までの5年間の事業規模15兆円余りにより、人命・財産の被害を防止・最小化するための対策に、流域治水対策を掲げ、関係者と協働し、ハード・ソフト一体となり、戦後最大洪水や近年災害の洪水等に対応する事前防災対策を推進し、浸水被害を軽減するとの中長期目標を示しています。そして、令和2年度第3次補正予算には、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」を推進するための「防災・減災、国土強靱化の推進、自然災害からの復旧・復興の加速及び国民の安全・安心の確保に必要な経費」が計上されました。これも会員各位の各種活動の賜物と感謝申し上げます。

今年も「流域治水対策」を推進するための治水事業費の増額を会員の皆様をはじめ、治水事業を担当する皆様とともに全国治水期成同盟会連合会として取り組む所存でございます。さらなるご支援、ご協力をお願い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

全国治水期成同盟会連合会  
会長 脇 雅史

## 新年のご挨拶



国土交通省  
水管理・国土保全局長  
井上 智夫

新しい年を迎えるにあたり、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

皆様には、日ごろから水管理・国土保全局の所管行政の推進にご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

近年、頻発化・激甚化する水災害に対して、計画的にインフラの整備や維持管理を実施してきた箇所では被害を免れたり、大きく軽減できた事例が数多く確認されており、事前の防災対策は非常に重要です。事前防災の効果としては、被害を大きく軽減できること、特に人命を守ることにつながることで、災害後の復旧や被災者の生活再建に係る負担、社会経済活動への影響の軽減につながるなどが挙げられることから、後手に回ることのないよう、着実に事前防災対策を進める必要があります。しかし、平成27年の関東・東北豪雨においては、利根川水系鬼怒川の堤防決壊により、茨城県常総市等で甚大な被害が発生し、令和元年東日本台風においては、関東、北陸、東北地方の各地で全142箇所の堤防決壊が発生するなど、全国各地で毎年のように大規模な水害・土砂災害により、多くの人的被害や経済被害が生じています。一方、例えば、平成30年台風第21号においては、大阪港で大規模な被害を生じた昭和36年第二室戸台風を上回る、既往最高の潮位を記録しましたが、これまで1,300億円かけて海岸・河川堤防、水門を整備し、200億円かけて適切な維持管理をすることによって、17兆円にも及ぶ市街地の高潮浸水被害を完全に防止しました。着実に進めてきた事前防災対策が効果を発揮することにより、災害復旧や再度災害防止の対策をとった場合に

比べて、経済的負担を大きく軽減することが可能となります。

平成30年7月豪雨、平成30年台風第21号、平成30年北海道胆振東部地震等の近年の災害を受け、「防災のための重要インフラ等の機能維持」、「国民経済・生活を支える重要インフラ等の機能維持」の観点から、特に緊急に実施すべき対策として、令和2年度を最終年度とする「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」（平成30年12月14日閣議決定）がとりまとめられました。これに基づき、水管理・国土保全局では、河川、砂防などの防災関係インフラ等を対象にハード・ソフト対策を集中的に実施してきており、これまでに対策を実施した箇所では、その効果が確認されています。例えば、令和2年7月豪雨では、川内川水系羽月川において、浸水被害が発生した平成18年7月洪水を上回る降雨をもたらしましたが、平成18年以降、計画的に実施してきた堤防整備等と3か年緊急対策による河道掘削がその効果を発揮した結果、羽月川の水位を大きく低下させ、浸水戸数をゼロに抑えることができました。

関係省庁の緊密な連携の下、令和2年の出水期から新たな運用を開始している事前放流の取組を充実・強化していくことが重要です。2級水系においては、近年に水害が生じた水系や貯水容量が大きなダムがある水系において優先的に治水協定の締結（令和2年8月末までに86水系）を進め、令和2年9月より運用を開始しています。

令和2年度の事前放流の実績としては、全国の1級水系及び2級水系の計122ダムにおいて、合計約1億3千6百万 $\text{m}^3$ の容量（東京ドームに換算すると110個分）を事前放流し、ダムの水位を低下させて大雨や台風などによる洪水に備えました。また、令和2年7月豪雨では、木曾川水系において、牧尾ダム（水資源機構管理）で事前放流を行い、三浦ダム（関西電力管理）等と合わせて8つの利水ダムで合計約4,200万 $\text{m}^3$ の容量を確保し、洪水を貯留しました。その結果、長野県木曾郡上松町の桃山地点において、その上流での洪水の貯留により、洪水流

量を約2割減らす効果があったものと推定されます。更に効率的・効果的に事前放流を実施するため、令和3年度より、損失補填制度を2級水系等に拡充するとともに、大きな洪水調節効果が期待できる場合に利水ダムの放流管増設などの施設改良を河川管理者が実施できる制度を創設することとしました。また、事前放流のきっかけとなる気象予測の精度向上や、水系ごとに河川管理者が機動的に利水ダム管理者等と放流量について調整するための情報収集システムの整備についても取り組んで参ります。

気候変動による降雨量の増加等に対応するためには、事前防災対策の加速化が必要です。

気候変動の影響により激甚化する風水害や切迫する巨大地震への対策、老朽化対策の加速化・深化等を推進するため、令和3年度から令和7年度までの5年間で、追加的に必要となる事業規模を政府全体でおおむね15兆円を目途として、重点的かつ集中的に講ずる対策を定めた「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」が令和2年12月11日に閣議決定されました。これに基づき、まず、激甚化する風水害や切迫する大規模地震等への対策として、あらゆる関係者が協働して行う流域治水対策や、地震時の最低限の排水機能を確保するための下水道施設の地震対策を実施してまいります。さらに、予防保全型インフラメンテナンスへの転換に向けた老朽化対策として、現時点で対応が遅れている老朽化対策施設等の修繕対策を集中的に対応し、コスト縮減につながる投資的取組を推進してまいります。さらに、国土強靱化に関する施策をより効率的に進めるためのデジタル化等の推進のため、河川、砂防、海岸分野における施設維持管理、操作の高度化対策や防災情報等の高度化対策に取り組んでまいります。

気候変動に対応するためには、まず、過去の降雨や高潮等の実績に基づいた計画を、将来の気候変動による降雨量の増加や潮位の上昇などを考慮した計画へと見直してまいります。さらに、社会の変化や気候変動も踏まえ、河川、下水道、砂防、海岸等の管理者が主体となって行う対策に加え、集水域と河川区域のみならず、氾濫域も含めて一つの流域として捉え、その流域全員が協働して、①氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策、②被害対象を

減少させるための対策、③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策、の3要素を総合的かつ多層的に進める「流域治水」に関係者一体となって取り組み、事前防災対策を加速してまいります。

水災害リスクを軽減させるためには、氾濫をできるだけ防ぐための対策が基本ですが、氾濫が発生することも視野に入れ、被害の対象を減少させる対策も合わせて講じることが重要です。水災害対策と「コンパクト・プラス・ネットワーク」とを連動させることにより、水災害リスクが高い区域における土地利用や住まい方の規制や、より安全な区域への居住や都市機能の誘導、また、氾濫水による浸水範囲の限定に加えて、浸水リスクがあるエリアにおける宅地の嵩上げや建築物の構造の工夫などの浸水被害軽減のための対策を講じることが水災害リスクの軽減には効果的です。水害に強いまちづくりを進めるためには、水災害に関するリスク情報を、まちづくりにおける活用を見据え、適切に評価し、具体的な対策に反映していくことが必要となります。例えば、想定最大規模降雨や治水計画等の目標とする降雨規模のみならず、中高頻度の外力規模の浸水想定や、河川整備完了後のハザード情報など河川整備が進んだ場合、現在の浸水ハザードが将来どのように変化するかなど、多段的な浸水ハザード情報の作成・周知を推進することが重要となります。

あらゆる関係者と協働し、これらの取組を推進していくことが重要です。水田や農業用ため池等を治水へ活用する意向がある流域の地方公共団体や土地改良区などに対しては、農林水産省と連携し、後述する「流域治水協議会」に地方農政局等の参画を求めるとともに、ため池活用の先進事例や支援策を周知したところです。また、土砂や流木の流出による甚大な被害が発生していることから、治山対策や森林整備を所管する林野庁とも連携し、流木捕捉効果の高い透過型砂防堰堤等の整備を進めております。さらに、令和2年7月豪雨により、高齢者福祉施設において大きな被害が発生したことから、厚生労働省と共同で有識者による「令和2年7月豪雨災害を踏まえた高齢者福祉施設の避難確保に関する検討会」を同10月に設置し、避難の実効性確保の方策について検討を進めております。

また、こうした取組を更に加速化させる観点から、令和2年10月に関係16省庁による「流域治水の推

進に向けた関係省庁実務者会議」を設置し、開催しました。実務者会議においては、各省庁より流域治水にかかる取組状況について報告をいただき、緊密な連携・協力の上、流域治水の取組を引き続き充実させていくことについて確認しました。

地域での具体の取組を推進することを目的として、全国109の1級水系全てにおいて、河川管理者・都道府県・市町村等の関係者からなる「流域治水協議会」を設立しております。この協議会を通じて、流域全体で早急に実施すべき流域治水の全体像を各地域での特性を踏まえてとりまとめ、本年度中に「流域治水プロジェクト」として策定してまいります。2級水系についても、「流域治水プロジェクト」の順次策定・公表を予定しております。

気候変動の影響により水災害の頻発化・激甚化が懸念されているところですが、国民の生命と財産を守るため、流域治水をはじめとした防災・減災対策を推進し、防災・減災が主流となる社会づくりに全力を傾けてまいります。皆様の引き続きのご支援とご協力を心からお願い申し上げます。

# 「河川愛護月間」“絵手紙”入賞作品決定!

国土交通省水管理・国土保全局治水課

国土交通省では、河川環境の保全・再生への取り組みを推進するとともに、国民の河川愛護意識を醸成することを目的として、毎年7月を河川愛護月間と定め、様々な活動を行っています。

本年度も月間行事の一環として、全国の小学生・中学生・高校生・一般の方々を対象に、川での思い出、川への思いを一枚のはがきに絵と文章を組み合わせて描いた絵手紙を募集したところ、全国各地から気持ちのこもった作品が多数(829点)寄せられました。

審査は、小学生低学年の部・小学生高学年の部・中学生の部・高校生の部・一般の部の5区分で行われ、この度、国土交通大臣賞(最優秀賞)1点、国土交通事務次官賞(優秀賞)6点、水管理・国土保全局長賞(優良賞)8点、審査員特別賞5点(計20点)が決定しました。

なお、入賞作品については、来年度の「河川愛護月間」ポスター、チラシ等に使用するほか、河川愛護活動の推進に幅広く活用します。

## <審査員>

- 安齋 千鶴子 (元 東京造形大学教授)  
石橋 真理子 (ライター)  
大平 信弘 (絵手紙募集実行委員会顧問)  
小倉 紀雄 (東京農工大学名誉教授)  
水野 麻紀子 (小学館ライフスタイル局  
チーフ・プロデューサー)  
山崎 登 (国土館大学防災・  
救急救助総合研究所教授)  
井上 智夫 (国土交通省水管理・国土保全局長)

主催：国土交通省

協賛：一般社団法人 建設広報協会

公益社団法人 日本河川協会

一般財団法人 河川情報センター

受賞者及び入賞作品は、以下のとおりです。

令和2年度 河川愛護月間絵手紙 受賞者一覧

賞	部門	都道府県	学校名	学年	氏名
最優秀賞 (国土交通大臣賞)	小学校高学年	徳島県	とくしましすけとうしょうがっこう 徳島市助任小学校	6	ゆあさ けいか 湯浅 慶香
優秀賞 (国土交通事務次官賞)	小学校低学年	広島県	ふくやましりつ いせがおかしょうがっこう 福山市立伊勢丘小学校	2	こうのべ としゆき 高延 利行
	小学校低学年	島根県	おおだ しりつ にましようがっこう 大田市立仁摩小学校	3	よしだ あやる 吉田 斐
	小学校高学年	愛知県	なごやしりつかすが のしょうがっこう 名古屋市立春日野小学校	5	よねやま るの 米山 瑠乃
	中学生	鹿児島県	かごしましりつよしのちゅうがっこう 鹿児島市立吉野中学校	3	むらた ゆうか 村田 優佳
	高校生	鳥取県	よなごしょういんこうとうがっこう 米子松蔭高等学校	2	こばやし ほのり 小林 星乃陸
	一般	東京都			こが ゆいか 古賀 結花
優良賞 (水管理・国土保全局長賞)	中学生	大分県	さいきしりつしょうわちゅうがっこう 佐伯市立昭和中学校	1	ふじわら かじ 藤原 風
	中学生	千葉県	もぼらしりつほんのうちゅうがっこう 茂原市立本納中学校	1	いわむら あんな 岩村 杏奈
	中学生	三重県	しりつたかだちゅうがっこう 私立高田中学校	2	よねやま もね 米山 百音
	中学生	千葉県	やちよしりつむらかみちゅうがっこう 八千代市立村上中学校	2	たかせ ゆあ 高瀬 優亜
	中学生	香川県	みとよしりつとよなかちゅうがっこう 三豊市立豊中中学校	3	まつだ えみ 松田 恵美
	高校生	鳥取県	よなごしょういんこうとうがっこう 米子松蔭高等学校	3	やまかわ ことね 山川 琴音
	一般	鳥取県			むかい きはち 向井 喜八
	一般	香川県			にった のりあき 新田 憲明
審査員特別賞	小学校低学年	北海道	未就学		みうら まりな 三浦 まりな
	小学校高学年	香川県	たかまつしりつおおたみなみしょうがっこう 高松市立太田南小学校	6	かどの なお 門野 奈音
	中学生	鳥取県	ゆりはまちょうりつ ゆりはまちゅうがっこう 湯梨浜町立湯梨浜中学校	2	みずの きより 水野 狭依
	中学生	鹿児島県	かごしましりつよしのひがしちゅうがっこう 鹿児島市立吉野東中学校	2	まつなが かな 松永 葉奈
	高校生	福岡県	ふくおかけんりつちくほうこうとうがっこう 福岡県立筑豊高等学校	1	しきた ほのみ 敷田 朋ノ実

### 最優秀賞(国土交通大臣賞)



徳島県 徳島市助任小学校  
6年 湯浅 慶香

### 優秀賞(国土交通事務次官賞)

<小学生低学年の部>



広島県 福山市立伊勢丘小学校  
2年 高延 利行

<小学生低学年の部>



島根県 大田市立仁摩小学校  
3年 吉田 斐

<小学生高学年の部>



愛知県 名古屋市立春日野小学校  
5年 米山 瑠乃

<中学生の部>



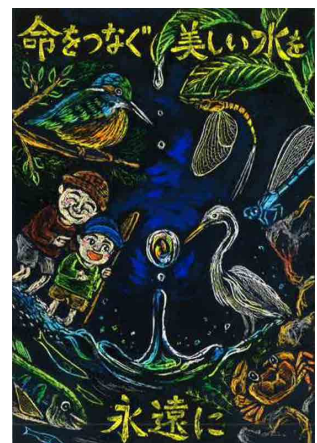
鹿児島県 鹿児島市立吉野中学校  
3年 村田 優佳

<高校生の部>



鳥取県 米子松蔭高等学校  
2年 小林 星乃陸

<一般の部>



東京都  
古賀 結花



# 優良賞(水管理・国土保全局長賞)

<中学生の部>



大分県 佐伯市立昭和中学校  
1年 藤原 風

<中学生の部>



千葉県 茂原市立本納中学校  
1年 岩村 杏奈

<中学生の部>



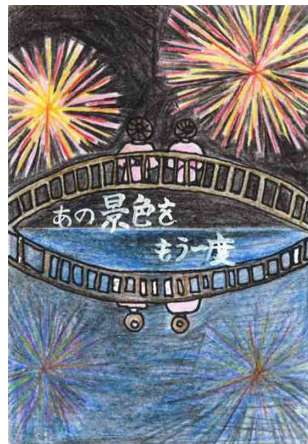
三重県 私立高田中学校  
2年 米山 百音

<中学生の部>



千葉県 八千代市立村上中学校  
2年 高瀬 優亜

<中学生の部>



香川県 三豊市立豊中中学校  
3年 松田 恵美

<高校生の部>



鳥取県 米子松蔭高等学校  
3年 山川 琴音

<一般の部>



鳥取県  
向井 喜八

<一般の部>



香川県  
新田 憲明

# 審査員特別賞

## <小学生低学年の部>



北海道 未就学  
三浦 まりな

## <小学生高学年の部>



香川県 高松市立太田南小学校  
6年 門野 奈音

## <中学生の部>



鳥取県 湯梨浜町立湯梨浜中学校  
2年 水野 狭依

## <中学生の部>



鹿児島県 鹿児島市立吉野東中学校  
2年 松永 葉奈

## <高校生の部>



福岡県 福岡県立筑豊高等学校  
1年 敷田 朋ノ実